

令和7年度第2回沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会 議事概要

1 開催日時

令和7年8月26日（火） 9:30～11:30

2 開催場所

公立大学法人沖縄県立芸術大学当蔵キャンパス管理棟2階第1・2会議室

3 出席者等

（出席）

前島 修 委員（日本公認会計士協会沖縄会会員（前島修公認会計士事務所））

砂川 昌範 委員（公立大学法人名桜大学学長）

福地 敬 委員（一般財団法人沖縄美ら島財団事務局長）

比嘉 悦子 委員（沖縄県文化芸術振興審議会会長）

以上 委員5名中4名出席

（事務局）

沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課

4 会議次第

（1） 開会

（2） 審議

【議題】令和6年度公立大学法人沖縄県立芸術大学業務実績評価（見込評価）について

（5） 閉会

5 議事の要旨

〔事務局〕

■定足数の確認

■会議の公開・非公開

委員長から、沖縄県公立大学法人沖縄県立芸術大学評価委員会運営要綱第3条の規定に基づき、公開することにより公正かつ円滑な審議等が著しく阻害され会議の目的が達成できなくなると認められるため、会議を非公開とすることとし、出席委員全員の賛同を得た。

【審議事項について】

- 令和6年度公立大学法人沖縄県立芸術大学業務実績評価（見込評価）について、公立大学法人沖縄県立芸術大学から意見を聴取した。委員からは特段の意見はなかった。

【評価案に対する法人からの意見】

- ・評価書案に関しては、大学の自己評価に沿った評価となっており、特段意見はない。
- ・人権の尊重に関する項目については、各種の取り組みを繰り返し行ってもなお発生した事実を真摯に受け止め、内部統制の強化など今後一層取り組みを強化していく。

- 意見聴取の後、公立大学法人沖縄県立芸術大学の関係者は退出し、全体評価の審議に入った。事務局から、項目別評価の前回からの修正内容及び全体評価案について説明を行ったところ、以下の意見が出た。

- 改善すべき点に、「人権侵害などの事案への対応を強化する観点から、学生に寄り添う形での相談支援体制の充実を期待したい。」とあるが、「充実を期待したい」というところが少し軽く感じられる。学生に寄り添う形での充実を求めたい、や、充実に取り組んでいただきたい、等の表現が、適切なのかと感じた。
- ハラスメントのところ、学生に寄り添うということはいいことだが、ハラスメントが起こってから相談が来るよりも、その前に防止する策が何か取れないか。例えば、「学生とのコミュニケーションをもっと密にして」、などの言葉を入れたい。
- ハラスメントに関する現状をより拾い上げるため、匿名による実態調査を行うことによって、大学に相談していいんだと、学生に思わせることができると思う。
- 令和6年度の決算が赤字になっていて、これは一時的な要因ではなくて授業料減免対象の学生が多いという説明だった。これからもずっと赤字のままの可能性もあるので、結果、十分な教育研究活動できなくなってしまう。必要な財源は確保していただくような努力という意味での法人への要望や、自己財源の確保について、何か一言入れておいたほうがいいと思う。

- 「社会貢献に関する目標を達成するための措置」のすぐれた特色の記述の部分で、展覧会、演奏会、研究成果発表会、公開講座、移動大学などを精力的に実施しているとあるが、数値目標を見てみると、「自治体、地域企業との連携事業」の項目が目標を上回っているので、その部分の記述をもう少し充実させたい。また、首里城復興にかかる彫刻制作など、大学の資源を活用して貢献しているという記述があり、学長を中心に貢献されているので、加えたい。
- 沖縄県における芸術の推進や振興の担い手である芸大をどう守っていくかということは、県民の理解のもとで、必ず進めていかなければいけない中身だと思う。県としては大変苦しい立場であると思うが、大学とすり合わせをしっかりと、大学の独自路線、こういったことにチャレンジしたいとか、こういったことで教育研究の中身を充実させていきたいというチャレンジについて県の方でも、理解を示して、後押ししていただきたい。
- 委員意見を踏まえた評価案への修正・追記について、委員長及び事務局に一任いただくことについて、一同了承。

【閉会】